

Section
02動画撮影に向く
デジタル一眼の特徴

Keyword 撮影機材 / カメラ選び

1

動画の基礎知識

デジタル一眼カメラは、各メーカーから様々な機種が販売されている。それぞれ、機能や仕様が異なり、得意な分野も違う。

その中でも、動画撮影に適した特徴、機材選びで重視したい機能を紹介する。

1 おすすめはミラーレス一眼

デジタル一眼の中でより動画撮影に適しているのがミラーレス一眼だ。一眼レフとは異なりミラーがなく軽量な上に、手ブレ補正機構がカメラに内蔵されている機種が多いため、長時間の動画撮影も快適。最近では AF（オートフォーカス）の高精度化に加え、AI 技術の進化で狙った被写体を追い続ける顔認識 AF の高性能化など、高速かつ正確な AF もミラーレス一眼のアドバンテージだ。

■ ライブビュー撮影



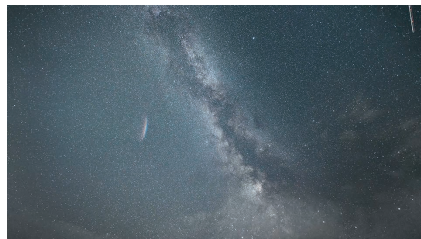
ミラーレス一眼で動画を撮影する時はライブビュー撮影が基本。実際の露出を確認しながら撮影でき、EVF（電子ビューファインダー）に比べ圧倒的に大きな画面を見ながら撮影することで構図も確認しやすい。背面の液晶モニターは可動式のものがベスト。無理のない姿勢で撮影できることに加え、アングルの自由度が大幅に高まり、よりクリエイティブな動画を撮影することが可能になる。

■ タッチパネル対応



ミラーレス一眼の多くが背面の液晶モニターでのタッチパネル操作に対応。露出や WB（ホワイトバランス）の設定変更がスムーズにできる。タッチ AF を利用すれば好みの位置に素早くピントを合わせることもできる。また、その時に操作音や振動が発生しないので不要な音を拾わないで済む。カメラを三脚に付けて撮影している時に操作音や振動によるブレを気にする必要がないのも大きなメリットだ。

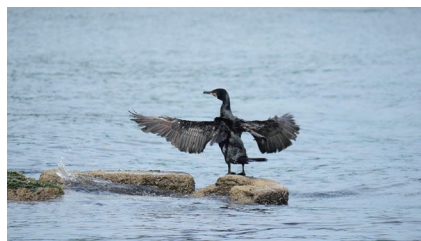
■ 4K 対応



4K 画質で撮影した動画から切り出した 1 枚。静止画撮影と遜色ない画質で星空を捉えている。

4K 対応のミラーレス一眼を使えばより高精細な美しい映像を撮影できる。4K の映像美をあますことなく堪能するにはテレビなどの出力機も 4K 対応が条件となるが、データ量の多い 4K 画質で撮影しておけば映像から静止画を切り出す時も十分な画質をキープできる。

■ 動画向き AF



AF 機能のおかげで、どの方向に動いてかわからない鳥にもピントを自動で合わせ続けられる。

スナップやスポーツ、イベントなど多くのジャンルで AF 撮影が基本となる。AF 撮影時に重要なのが AF カスタム設定。撮影状況に合わせて AF の駆動速度と追従感度を個別に設定できる機能で、ほどよい速度で被写体にピントが合い、動きを追って適切な速度で再びピントを合わせることで、滑らかにシーンを繋ぐことができる。これは瞬時にピントを合わせたい静止画撮影との大きな違いだ。

ONE POINT 動画撮影に最適なセンサーサイズ

最近流行のフルサイズは圧倒的なぼけ味と高感度の強さが魅力だが、ピント合わせがシビアで手ブレしやすいデメリットも。その点、センサーが小さく軽量ボディのマイクロフォーサーズはぼけ量が少ない分、ピントが合いやすく、手ブレ補正も効きやすいので動画撮影に実用的なミラーレス一眼といえる。

1

動画の基礎知識

Section
05機材をそろえよう
③マイク、レコーダー

Keyword 撮影機材 / マイク / レコーダー

1

動画の基礎知識

動画を撮影する時には、同時に周囲の音声も録音したい。録音は、カメラに内蔵されたマイクだけでなく、外付けマイク、レコーダーを利用する方法もある。

1 内蔵マイク

撮影現場の音を拾う時に必須のマイクだが、気軽に音を録りたい場合はカメラに搭載されている内蔵マイクを使うのが手取り早い。カメラのみで撮影を完結でき、追加費用がかからないが、カメラの操作音、駆動音などを拾いやすいというデメリットもある。撮影前に声でシーンの説明を録り、後のPC編集時用のメモ録音として残す場合などに活用すると便利だ。

2 外付けマイク・レコーダー

現場の音声も含めた動画を撮影する場合は、外付けマイクを利用するのがおすすめ。音をおろそかにすると、作品全体のクオリティに影響してしまうのが動画撮影の特徴でもある。最近ではカメラボディのサイズに合ったコンパクトで高音質な外付けマイクが充実しているので、動画撮影の用途によって選ぶとよい。外付けマイクの指向性は、主に無指向性・単一指向性・超指向性が一般的だ。他には前後2つの方向の音源を捉える双指向性もある。マイクが拾った音をデータに変換し、録音するのがレコーダー。音質よく、ノイズなしに録音できるレコーダーほど性能のよいものとなる。マイクと一体型のものも多い。

■ 外付けマイクの指向性

無指向性	マイク本体の向きや角度に関係なく、音の大きさだけに反応するのが無指向性マイク。インタビューや議事録、環境音の生録など、音源の場所が一定しない場合などの録音に適している
単一指向性	欲しい音や狙う音の出ている方向にマイクを向けると、必要な音のみを効果的に録音できる。雑音や残響をなるべく拾わずにカメラの前の音だけ録りたい時などに最適だ
超指向性	狙った方向の延長線上にある遠い音を捉えるために単一指向性をさらに狭角にした、いわゆる“ガンマイク”。マイクを被写体に近付けられない時や舞台のセリフ収録などに便利だ

■ 外付けマイクの種類

<無指向性>



ティアック TASCAM DR-10L

身に付けられるピンマイクレコーダーで人物の声を録るならまさにこの1台。軽量、コンパクトなウェアラブル設計でイベント、舞台での音声収録から講義やセミナーの録音など幅広い用途で手軽に高音質な音声収録ができる。

<単一指向性>



銀一 RØDE VideoMicro

超小型の単一指向性マイク。小型ながら、ガンマイク型のデザインになっている。一眼レフや小型ビデオカメラに取り付けるオンマイクカメラ。周囲音を減少させ、マイクの正面に焦点を合わせた録音が可能。

<超指向性>



©ShureJapan

SHURE VP83F

感度が高く繊細な音まで拾うことができるのがコンデンサーマイク。カメラのホットシューに装着できる「SHURE VP83F」はデジタルフラッシュレコーディング機能が搭載された小型で堅牢な高音質マイク。解像度の高いプロ品質の音を録音できる。

ティアック TASCAM
DR-10SG

動画の音声をより高音質に録音できるガンマイク一体型のリア PCM レコーダー。カメラのホットシューに装着できる簡単セッティングながらリア PCM モノラル録音が可能。音にこだわるならぜひ撮影にプラスしたい。

▼要点

- 動画では音声映像クオリティに大きく影響するので、同時録音の撮影は外付けマイクを使う。
- 撮影スタイルシーンに合った指向性を持つ外付けマイクを選ぶ。

1

動画の基礎知識

Section

01

動画撮影の仕組み

Keyword フォーマット / フレームレート / ビットレート / フレームサイズ

2

基本の動画の撮影方法

「フォーマット」「フレームレート」「ビットレート」「フレームサイズ」の4つが動画の画質を決める。

仕組みをきちんと把握して、撮影時にカメラをどのように設定するべきか判断できるようになろう。

1 フォーマットとは

動画のフォーマット（記録形式）は、撮影した動画データをどのように圧縮してどのような状態で記録するかを決めるもの。最も一般的なMP4は圧縮された状態で記録されるためデータはコンパクトになるが編集時に破綻しやすいことは頭に入れておこう。XAVC Sは4K記録する時に用いられる方式で、フルHDや、HD動画で多く利用されてきたAVCHDの進化形フォーマットといえる。

名前	拡張子	説明
MP4	.mp4	MPEG-4という動画圧縮形式のことで、PCでの再生や編集に適している。MP4の中でもさらに細かいバリエーションがあるが、基本的には手軽さを求める場合や配信用に向く
MOV	.mov	アップル社が開発した動画形式で、JPEG圧縮をベースにしたモーションJPEG圧縮で記録。MP4と同様、PCでの再生、編集に適している。MP4に比べデータ量が大きく高品質
FLV	.flv	Flash Videoというファイル形式のこと。以前はYouTubeなど動画サイトで頻繁に使われていたが、サポート終了に伴い廃れつつある
XAVC S	.mp4	主にSony製のカメラで4K記録する場合に利用される方式。AVCHDと同様で専用のフォルダーに格納され、テレビやDVDなどの対応機器で再生しやすいようになっている

2 フレームレートとは

フレームレートは1秒間に再生される画像の数の単位で、fpsで表記される。通常の映画では24fps、PAL方式のヨーロッパのテレビでは25/50fps、日本やアメリカでは30/60fpsのNTSC方式が採用されている。フレーム数が多い方が動きは滑らかに表現される。反対にフレーム数が少ない場合は、シャッタースピードを落としてブレたように画像を記録することで動きを滑らかに表現する方法もある。

■ フレームレートによる滑らかさの違い

4コマのバラバラマンガ

16コマのバラバラマンガ



覚えておくべき基本的なフレームレートは24fps、30fps、60fpsの3種類。ただし、1本の動画の中で使用可能なフレームレートは1種類だけなので、以下の情報を参考にして使用するフレームレートを決定しよう。

フレームレート	適したシーン
24fps	映画が採用しているフレームレートで、少ないコマ数でギリギリ滑らかに見えるフレームレートともいわれているが、動きの早いものを高速なシャッタースピードで撮影してしまうと動きがカタカタに見える欠点がある。シャッタースピードにおいては、関東圏は屋外撮影であれば1/25s、屋内であれば1/50s。関西圏は屋外撮影であれば1/30s、屋内であれば1/60sに設定するのがお勧め
30fps	最も一般的に流通しているフレームレート。互換性も高いため、多くのシーンはこのフレームレートで撮影して問題ない
60fps	動きの速いスポーツシーンやアクションシーン、パンニングを滑らかに見せたいときに有効なフレームレート。4K撮影時の推奨フレームレートでもある。ただし現在4K/60fpsで撮影可能なカメラは最新の高級機に限られ、その配信も一般的ではないため、スローモーション撮影で使用するフレームレートだと考えてよい

※カメラの設定で「29.97fps、59.94fps」というフレームレートを見かけるが、これはテレビ放送に使用しない限り、それぞれ「30fps、60fps」とほぼ同じと考えて構わない。

2

基本の動画の撮影方法

Section
02ピントとフォーカスの
考え方

Keyword オートフォーカス / マニュアルフォーカス

2

基本の動画の撮影方法

デジタル一眼の特徴を最も出せると同時に、撮影を難しくする要素でもあるピント・フォーカスの調整。動画撮影では手動でフォーカス操作を間に合わせることは難しいので、オートフォーカス(AF)を使うことが多いが、マニュアルフォーカス(MF)にも得意分野がある。

1 AFを活用する

動画撮影時のAFが大きく進化した最近のミラーレス一眼やデジタル一眼レフでは、被写体を問わずスムーズにピントが合う機種が増えている。積極的にAFを活用しよう。できるだけAFでピントが合いやすい環境を選んで撮影するのもポイントだ。

■ 背景を綺麗に整理する

✕ AF 効きにくい



○ AF 効きやすい



ごちゃごちゃしている背景や強い逆光、真っ暗な室内などではAFが効きにくい。シンプルな背景やフラットな光など、AFが効きやすい環境で撮影することを心がける。

■ 人物の瞳をしっかり写す

✕ AF 効きにくい



○ AF 効きやすい



ポートレート撮影の時に積極的に活用したいのが、カメラが自動で人物の瞳にピントを合わせてくれる瞳AFだ。被写体との距離を近くするなどカメラが人物の瞳を認識しやすい状況で撮影しよう。

2 状況に合わせてフォーカスモードを使い分ける

動画撮影のフォーカスモードにはAFとMFがあるが、動体を撮影する場合、基本的にAFを利用する。MFでは被写体の動きにピント合わせが追いつかないからだ。一方、自然風景やインタビューなど、被写体とカメラの距離があらかじめ把握しており、距離が変化しない場合は、不要なピンボケを防ぐ意味でもMFでピントを合わせた方がよいケースもある。

■ 状況ごとの適切なフォーカスモード

カメラ	被写体	フォーカスモード
固定	動き多い	AF
	動き少ない	MF
手持ち	動き多い	AF
	動き少ない	撮影者が動く場合、AF

AFで動体を撮影する時は、背景を大きくぼかすことは考えない方がよい。背景のぼけよりも動く被写体にしっかりピントを合わせることが優先しよう。また、自然風景などで全てにピントを合わせたい時はフォーカスをMFにして、広角レンズで絞りを絞り気味にパンフォーカス撮影するのがおすすめ。



あまり動かないセットでの撮影では、MFにしてもよい。



手持ちで前後に動いて撮影する場合は、AFを頼ろう。

▼
要点

- AFが効きやすいロケーションを選んで撮影する。
- 動きが激しい被写体を撮影する時は背景ぼけにこだわらない。

2

基本の動画の撮影方法

Section
05

露出設定の考え方

Keyword 露出 / フレームレート / シャッタースピード / 絞り / ISO 感度

2

基本の動画の撮影方法

露出設定によって映像の明るさは大きく変わる。ただ、明るすぎれば白トビしてしまうし、暗すぎれば見づらくなってしまう。動画の場合は、フレームレートを基準にシャッタースピードが決定され、絞りとISO感度で必要な露光量が決まる。

1 露出とは



露出とは簡単にいうと、写真に取り込む光の量、つまり明るさのこと。シャッタースピード、F 値、ISO 感度の組み合わせで決まる。暗い場所ではF 値を小さく、あるいはISO 感度を上げ、明るい場所ではF 値を大きく、あるいはISO 感度を下げる必要がある。F 値とISO 感度での調整が難しい場合、ND フィルターを活用して露出をコントロールしよう。

2 露出補正とは



写真の明暗が撮影者の意図する明るさで記録された状態を、適正露出と呼ぶ。P、A、S モードでは、カメラが被写体の明るさを見極めて露出を自動決定する。これが撮影者の意図した明るさではない時のために映像をより明るく（プラス補正）、または暗く（マイナス補正）なるように露出をコントロールするために露出補正という機能が用意されている。

3 動画における露出設定の基本

静止画撮影とは異なり、動画の場合、シャッタースピードの設定はフレームレートが基準になる。例えばフレームレートが30fpsなら使えるシャッタースピードは1/30 秒から1/60 秒に固定されることになる。その上で背景をぼかすかくっきり写すかでF 値を決め、最終的に欲しい明るさはISO 感度で調整することになる。このため、ISO 感度はオートにしておくと便利だ。



撮影モード マニュアル 絞り f4
シャッタースピード 1/50秒
露出補正 なし
ISO感度 100
WB オート
使用レンズ 50mm F1.8
焦点距離 50mm



撮影モード マニュアル 絞り f6.3
シャッタースピード 1/50秒
露出補正 +1.5
ISO感度 100
WB オート
使用レンズ 50mm F1.8
焦点距離 50mm

上の2枚の写真は、F 値以外の設定は全て同じ。F 値の違いだけで画面の明るさが大きく変わっている。また、今回はマニュアルで撮影されているため、露出補正が設定されていないが、右の写真のように、映像が暗い場合、露出補正をプラス側に調整することで、映像を明るくすることができる。ただし、静止画撮影に比べ動画撮影時の露出補正の範囲が狭い。撮影開始前に露出補正を行い、適正な露出設定を行っておこう。

ONE POINT もっと簡単に露出を決める方法

液晶モニターを使ったライブビュー撮影では、露出設定した数値で撮影した際、画像がどのくらいの明るさで写るのかをモニターでリアルタイムに確認できるため、露出はスムーズに設定できる。プログラムオートにすると撮影中に光の変化などによって値が変化してしまうことがあるので、一度設定した露出で撮影を続けたい場合、プログラムオートで露出値を決めた後に、マニュアルに切り替えて露出値を固定するのも1つの方法だ。ただし、ライブビューを屋外や夜間に行うとすると見た目と実際に露光された光量が異なる「明暗の同時対比」が起こる場合もあるため、注意が必要だ。

2

基本の動画の撮影方法

Section 07

代表的なフोटスタイルとデジタルフィルター

Keyword フォトスタイル / 色調 / デジタルフィルター

2

基本の動画の撮影方法

フोटスタイルとデジタルフィルターは、どちらも映像の雰囲気を変えたり、特殊な効果を加えたりすることができる機能だ。ここでは各社が搭載しているデジタルフィルターの中で代表的なものを、Panasonic製品の表記を基準として紹介する。他社カメラの場合、一部名称が異なる場合がある。

1 代表的なフोटスタイル

フोटスタイルはカメラに搭載されている画像の仕上がり設定のこと。メーカーによってはピクチャースタイルなどとも呼ばれる。スタンダード、ナチュラル、風景、人物などがあり、それぞれのモードでコントラスト、シャープネス、彩度などを個別に詳細設定することも可能。自分好みの色合いに設定しよう。

名前	説明
スタンダード	色の鮮やかさやコントラストが標準的な仕上がりになる。初期設定であり、ほとんどのシーンに対応できる
ヴィヴィッド	彩度とコントラストが高めになり、被写体の輪郭がやや強調されて鮮やかな仕上がりになる。曇天など色が出にくい時にも効果的
ナチュラル	コントラストが低めで彩度が強調されず、柔らかな印象の仕上がりになる
モノクローム	色味が抜けて単色になる。色調は、白黒以外に変更することもできる
L. モノクローム	上記モノクロームよりも階調が豊かで黒が引き締まったモノクロ効果になる
風景	青空や緑が鮮やかになり、輪郭が強調される。風景撮影に適している
人物	肌を健康的で綺麗な色に仕上げる。女性や子どもをアップで写すのに適している
カスタム	あらかじめ好みの仕上がり調整し、登録した設定で撮影できる

2 代表的なデジタルフィルター

カメラに搭載されたデジタルフィルター機能も動画で利用できる。ポップやレトロ、トイフォトなど、画像の仕上がりを大胆にアレンジでき、絵柄に変化を付けたい時などに有効だ。ただし、撮影後の編集には制約があるので使い方を考えたい。

■ ポップ (POP)



彩度とコントラストが強くなり、ポップアート風のカラフルな仕上がりになる。色の印象を強めたい時に向いている。

■ オールドデイズ (OLD)



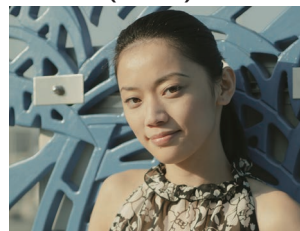
少しあせた色味で、光に包まれたような柔らかな懐かしい雰囲気になる。記憶の片隅に残る光景のような印象になる。

■ ローキー (LKEY)



画面全体が暗く落ち着いた雰囲気になる。背景が暗い被写体を撮ると、明るい所を引き立たせ、闇に浮き上がるような印象になる。

■ レトロ (RETR)



淡い色合いになり、柔らかな印象になる。昔プリントしたような色あせたフィルム写真のような雰囲気をももたし出す。

■ ハイキー (HKEY)



画面全体が明るくふんわりと柔らかな雰囲気になる。屋外で撮れば、夏の日差しがまぶしさを表現したような仕上がりになる。

■ セピア (SEPI)



セピア色の画になる。白黒画よりもノスタルジックな印象になる。

2

基本の動画の撮影方法

Section

03

料理動画を撮影しよう

Keyword 料理動画 / 屋内撮影 / ホワイトバランス

3

シーン別動画撮影テクニック

一口に料理の動画といっても、レシピや技術のハウツー動画もあれば、美味しそうな料理を見ること自体を楽しむものもある。今回は、映像クリエイター小林大介さんによる、「料理する光景をシネマティックに撮影した動画」を解説する。

1 撮影の準備

ストーリー構成についてはあまり考える必要はなく、手順通りに調理すればよい。ただし、撮影にあたって料理をスムーズに作れるよう事前の練習はしておこう。料理ははっきりした陰影が出て、自然光のような明るさが美味しそうに見せやすい。そのためロケーションはなるべく自然光が入る場所・時間がよいが、難しい場合は照明を設置してもよい。今回は、照明を用いている。被写体となる料理には色とりどりで鮮やかなものや、豪華に見えるものなど、動画作品にした時に映えるものを選ぶと楽しい動画になるだろう。

■ 使用機材



カメラ Sony α7S II (※現在は販売終了)
 レンズ Sony Sonnar T* FE 55mm F1.8 ZA
 三脚 Manfrotto Befree
 マイク RODE VIDEOMIC PRO

■ カメラの設定

設定 絞り F2.8
 シャッタースピード 1/60
 WB 4500K

基本的にマニュアルフォーカス。F値はF2.8を基準として被写体に応じて変更した。シャッタースピードは西日本なので 1/60 固定。(東日本の場合は 1/50) ホワイトバランスは 4500K を基準と考え、ロケーションの色温度に対し柔軟に変更する。

2 動画の概要

【SCENE1】指向性マスクの利用でカットのシーンの音を拾う



この動画ではパエリアを作っていく。パエリアはスペインの米料理で、肉や魚介などの具材とお米を、サフランやターメリックで黄色く色付けたスープで炊き込んだもの。指向性マイクを使用して、調理の音を拾いあげ、シズル感を出す。

【SCENE2】寄りの撮影で手元に視線を集中



引き続き、玉ねぎを刻んでいく。寄りで手元を撮影することで、雑然としたイメージではなく、手元に集中できる。

【SCENE3】加熱シーンのアングルは、45度以上に上げないことがポイント



フライパンで具材を加熱する。にんにくや玉ねぎを炒め、具材の肉を焼いていく。カメラのセッティング位置は、45度以上に上げないようにして設置する。

【SCENE4】食材を煮込む～完成までの撮影



最後に米を加えてスープで具材を煮込み、水気が飛んだらパエリアの完成。「グツグツ」という音を拾い、湯気、色鮮やかさ華やかさを押さえておく。

3

シーン別動画撮影テクニック

Section

04

室内ルーティン動画を
撮影しよう

Keyword ルーティン動画 / 室内撮影

3

シーン別動画撮影テクニック

日々の生活風景を撮影しよう。普段は家族写真やウェディングフォト、撮影講座を中心に活動しているカメラマンRome. photographさん流の、撮影のない日のルーティン動画撮影を紹介する。

1 撮影の準備

自然光を取り入れて、雰囲気よく上げたいので、天気がよく、部屋に光の入りやすい時間帯を選んで撮影を計画した。

ストーリーの構成は、今回はカメラマンの日常をテーマにするため、日常生活の中でもカメラマンらしいものを、朝の時系列に合わせて選んでいる。また、アフレコするため、今回同時録音は行っていない。

■ 使用機材



カメラ OLYMPUS PEN E-PL8 (※現在は販売終了)
 レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ
 外部マイク なし

■ カメラの設定

設定
 絞り F3.5
 補正 ± 0
 WB AUTO

なるべく自然なイメージでの撮影を心がけているので、露出補正やホワイトバランスの補正はしていない。基本はオート撮影で行っている。

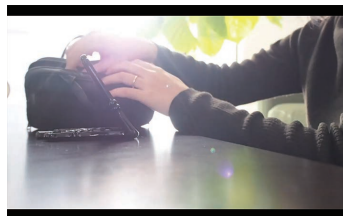
2 動画の概要

【SCENE1】自然光を取り入れ朝のイメージに



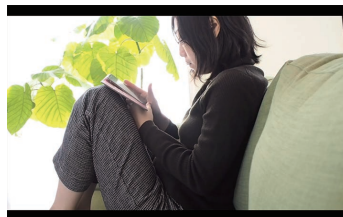
カメラマンの朝のルーティンというテーマのため、カメラマンらしい仕事の準備を随所に入れつつ、時系列順に見せるストーリーを計画。日当たりのいい場所で撮影し、朝の雰囲気を出した。

【SCENE2】メイクシーンはテンポよく撮影する



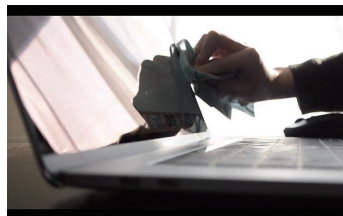
メイクの仕方などの紹介ではないため、過程を飛ばし、何をしているかの要点だけをテンポよく撮影した。

【SCENE3】フリッカー現象に注意して撮影する



スマートフォンを使って顧客とのやり取りをしている様子。カメラで液晶画面を綺麗に写す時は、フリッカー現象に注意する。

【SCENE4】強い自然光でパソコンの情報を自然に隠す



見やすく3分程度で終わるよう、余分なところは引き算して短くまとめている。
 パソコン仕事をはじめると、というシーンで、今日のルーティン動画をまとめた。

3

シーン別動画撮影テクニック

Section

07

キャンプ動画を撮影しよう

Keyword キャンプ動画 / 野外撮影

3

シーン別動画撮影テクニック

四季折々の姿を見せられるキャンプの動画を撮ろう。また到着から夜にかけての時間の流れ、キャンプ道具や調理、ランプや焚き火など見せたいものをドラマチックに撮影している outdoor_life23さんの撮影方法を紹介する。

1 撮影の準備

まず季節を感じられるキャンプ場をピックアップし、サイト間の距離や人工物が少ない撮影地を絞り込んでいく。雨や雪でも悪天候以外ならキャンプのよさを伝えられるので、その時の天候に合った準備をして撮影を行っている。

一番大切なのは設営。どの位置にテントの入り口を持ってくるのか、季節を感じられる木々が近くにあるか、焚き火をしている時に背景にテントが写るか、人工物は最低限に抑えられるかなど、画角にどのようなものを入れたいかをイメージしながら設営を行う。またカメラの位置も頭に入れてレイアウトする。カメラの位置が隣のサイトからしか撮れないような配置は避けるようにする。

■ 使用機材



カメラ FUJIFILM X-T30
 レンズ FUJIFILM XF35mmF1.4 R
 XF10-24mmF4 R OIS
 三脚 Velbon UT-3AR
 ジンバル DJI Ronin-SC

■ カメラの設定

当日の天候や時間帯などの状況・昼間と夜の撮影に合わせて絞り・シャッタースピード、露出、ホワイトバランスなどを変えて撮影している。

2 動画の概要

【OPENING】季節を意識した風景・道具を撮影



秋にキャンプしたことを感じられるように、紅葉を撮影しておく。また少し寒くなってきた時に使用するキャンプ道具も撮影する。

【SCENE1】キャンプ道具でできる料理に期待感を持たせる



キャンプ道具で調理することの楽しさや、どんな料理ができるのかという期待感を持って見てもらえるように、料理の過程より、完成した後のシーンを多く撮影する。

【SCENE2】夜のハイライト「焚き火」を撮る



完全に暗くなる前に焚き火の撮影を行う。炎の広がりに加えて、車とテントなどを撮影しておくことで、全体の雰囲気伝える。

【SCENE3】焚き火を画角に入れて臨場感を演出



できる限り、焚き火が画角に入るように撮影する。被写体に対して、焚き火を前ぼけさせ、作業しているシーンなどで臨場感を演出している。

3

シーン別動画撮影テクニック

Section
102台のカメラを使い分けて
舞台動画を撮影しよう

Keyword 舞台動画 / 固定カメラ撮影

3

シーン別動画撮影テクニック

舞台の動画撮影では、2台のカメラを用いて、舞台全体の記録と、舞台の見どころのピックアップをそれぞれ分担して撮影するのがポイントだ。一度きりで撮り直しができない舞台本番を、あまらず一発で撮影しよう。

1 撮影の準備

撮影計画を立てるため、リハーサルに立ち会おう。その場でカメラのアングルや設定を調整しながら、舞台の見どころがいつ頃なのか、舞台のどこで演技が行われるのかを確認しておくのとよいだろう。

露出は最も使用シーンが多い明るさに合わせて固定する。オートにしていると、暗転や目潰しのライトに露出が追従してしまう。ただし、スポットライトを多用する場合などは、ハイライト重視のオートにするのもよい。WBもメインのライトに合わせて設定するとよいだろう。ただし、メインライトとスポットライトの光質が異なる場合は、バランスをとって設定を行う。

センターカメラは4Kで撮影し仕上がりはフルHDとすることで、センターカメラの動画を編集時にトリミングして劣化のないデジタルズーム、パンニング、部分アップが可能であることを前提とした。しかし、メインカメラのセッティングは最重要なので、別途重点的に解説する。

■ 使用機材

センターカメラ Panasonic GH4

レンズ LUMIX G 20mm / F1.7 ASPH.

AV F5.6

SS 1/50

ISO 1600

WB 現場のライトにセット

その他 外部電源ユニット、64GB メモリー、音声はPAから直接入力。三脚は使わず、舞台正面のPA室の下の梁にカメラを設置させてもらった。

サイドカメラ Sony α 7s

AV F5.6

SS 1/50

ISO 1600

WB 現場のライトにセット

三脚 リーベック TH-Z H+TH-Z T

マイク RODE(ロード) VideoMic Rycote

2 動画の概要

【MAIN CAMERA】メインカメラのセッティングと運用について



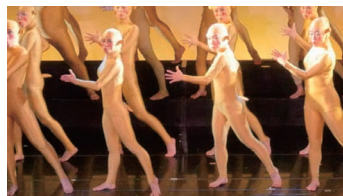
メインカメラは舞台の必要なシーン全てを捉えることが役割となる。そのため、細部まで気につけ、カメラをセッティングしよう。

【SCENE1】花道からスポットまでカバーしよう



舞台のど真ん中だけでなく、舞台から客席に伸びる花道、演者が出入りする袖まで、どこが見どころになってもしっかりと備えよう。

【SCENE2】舞台の端から端までパンニング



舞台を横いっぱいにする演出は、1箇所を切り取っても俯瞰をしても、舞台上の迫力は伝えき切れない。あまらずにその迫力を伝えるのに、編集時にパンニングを行なった。

【SCENE3】ここ一番の見どころを、最高の画角で



客席からでないといけない感動、センターカメラでは写せないアングルや客席の様子は、サイドカメラで捉えよう。一層の臨場感や感動を伝えられる。

3

シーン別動画撮影テクニック